

アフリカ学会第 53 回学術大会
公開シンポジウムのお知らせ

「アフリカ農業・農村の現在と未来～日本は何が可能か～」

日時 2016年6月5日(日) 13:10～16:00

場所 日本大学生物資源科学部・大講堂(本館4階)

◇趣旨

2000年代に入り、アフリカには新しいグローバル化の波が押し寄せてきました。鉱産物や農産物の価格上昇を背景とした投資の流入です。「崩壊した国家」の中で、アフリカの農民たちは世界市場や世界の政治動向に直接晒されるようになっていきます。携帯電話を使っている農民達をみると、グローバル化の中で逞しく生きる姿をみるようですが、土地の私有化や市場の自由化といった新しい変化に乗り遅れないよう必死になっている姿のようにもみえます。このシンポジウムでは、アフリカの農業・農村を取り巻く新しい環境を理解した上で、21世紀アフリカの農業・農村のあり方について多面的に検討してみたいと思います。その中で農民達の脆弱性増大を防ぐために、我々にはどのような貢献が可能なのか、という点についても考えてみましょう。

◇プログラム

13:10～13:15 挨拶 半澤和夫(日本大学)

13:15～13:20 趣旨説明 島田周平(東京外国語大学)

13:20～13:40 佐藤千鶴子(日本貿易振興機構アジア経済研究所)

「南アフリカにおける2つの農業と土地改革」

13:40～14:00 池上甲一(近畿大学)

「NGOの役割ーフェアトレードと土地収奪をめぐってー」

14:00～14:20 時田邦浩(日本大学)

「ネリカの普及ーウガンダの事例からー」

14:20～14:40 若月利之(島根大学名誉教授)

「アフリカ水田農法による食糧増産と環境保全、そして難民定住化への挑戦」

14:40～15:00 休憩

15:00～16:00 総合討論